

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人社団一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家	ユニット名	1階
所在地	静岡県浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	平成23年1月27日	評価結果市町村受理日	平成23年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成23年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設内は明るく清潔。 ・利用者の個性を尊重し、プライバシーに配慮した生活を送っている。 ・職員は常に利用者の事を第一に考えている。 ・利用者が気持ちよく落ち着いて生活できるよう支援している。 ・健康や安全面に配慮しながら、その人らしい生活が出来るよう支援している。 ・感謝の言葉を忘れない。 ・ご家族ともより良い関係が保てるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゴルフガーデンを見下ろす南向きのベランダ近くに、緑豊かな木立がある。広く明るいフロア空間には利用者や職員の声が明るく響いている。医療法人グループの一人として医療との連携、防災に関する設備や訓練、各種研修等恵まれた環境を存分に活用している。管理者のリーダーシップとそれに応える職員の誰もが、個別ケアに強い関心をもって仕事にのぞんでいる。理念にもある「暮らしの中で共に歩いていく」気ばりの支援は、法人との連携とあいまって利用者、家族の安心につながっている。今後、地域との交流を進めていくための取り組みに関し、すでに具体的なイメージを持ち始めている管理者の前向きな姿勢を頼もしく感じた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「気持ちのわかる親切、清潔、和やかな雰囲気」を基本に、グループホームの理念「自然体で安らぎ、ぬくもりのある暮らしの中で共に歩んでいきます」を実践していくよう日々努力している。	グループホーム独自の理念を掲げ「自然体で安らぎ、ぬくもりのある暮らしの中で共に歩む」支援を実践している。施設内の掲示をはじめ、会議等で理念の理解を促す取り組みを行い、職員全員で共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホーム単独で日常的に地域とのつながりを持つ事は難しく、法人全体としての関わりに留まっているが、地域のお祭りに参加する等の関わりは継続している。	地域との交流は法人全体の活動として行われているが、地域の行事への参加や自治会との関わり、ボランティアの受け入れなどにおいて、グループホーム独自の取り組みがまだ不十分である。	事業法人の一員としての立場に留まることなく、施設側から地域住民に働き掛けて互いの情報の共有や人的な支援を深めていく、グループホーム独自の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として行なっている。グループホームとして地域の方への働きかけは不十分な面はあるが運営推進会議を通して少しずつ理解して頂くことや、ボランティアを導入し理解を深めて頂くよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価や外部評価結果、日常生活の報告等をし、意見を頂きサービス向上に役立てている。	家族代表はじめ自治会役員・民生委員・市や地域包括支援センターの職員等の出席者と運営の実状や評価に対する取り組みなどの意見交換をしてサービスの向上に活かしている。議事録は常に閲覧できるよう配慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の推進会議にて、市の担当者に現状を報告し、市の介護相談員の来訪にて現状をみて頂いている。	月毎に市の介護相談員が来所し、利用者と交流している。運営推進会議等機会あるごとに市役所職員に情報提供を行い、サービス向上に対する施設の取り組みの理解と協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修の参加や、ミーティングでの話し合いにより理解し実践している。出入口の施錠についても、開錠を基本とし、どうしても施錠が必要な時のみとしている。	外部や法人内の研修で、身体拘束に関する正しい知識を職員全員が身につける取り組みを行っている。利用者家族の理解のもと出入口も開錠することを基本とした、身体拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて高齢者虐待について勉強会を開いた。身体の虐待はもちろんの事、精神的虐待もあってはならない。常に利用者に寄り添い気持ちに沿った支援に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の専門的立場の担当者がある。ミーティングにて勉強会を開き学んだ。活用する機会はあまりないが、継続して勉強していく必要はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人内の相談課にて十分な説明のもと、不安や疑問に関しては、管理者が直接説明する機会も設けており、理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議での意見交換、面会時や介護計画説明時に要望や意見を聞き職員間で共有しケアに反映できるよう努めている。	年一回家族アンケートを行い、面会時やカンファレンス等で出された意見や要望を補っている。利用者や家族の思いを共有できるようなアルバムを活用した連絡帳のアイデアを実現させたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に意見箱があり、提案等を聞ける機会を設けてある。ミーティングや個別に意見を聞き反映させるよう努めている。	ミーティングで個人の意見、提案を取り上げるほか、主任が職員の身近で相談に応じ施設長と共に検討し対応する。グループホーム内で対応が難しい問題には、法人管理部門に解決を委ねる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の努力や勤務状況、実績について把握し、代表者に報告している。労働時間の検討等改善が必要な部分はある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を中心に行なっている。外部研修は十分とは言えないが、出来る範囲で参加しミーティング等でフィードバックしていくようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、勉強会に参加している。回数が少なく、交流がもてるまでに至っていない。情報交換の必要性は十分に解かっている。今後は交流する機会を作っていくよう努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の相談課にて専門の相談員が家族より相談を受けている。 本人の困っている事や要望についてはご家族から聞き取ることが多いが要望に添った必要なサービスが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人内の相談課にて専門の相談員が相談を受け要望や不安を聞き取り不安がないよう安心してサービスの利用が出来るよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の相談課にて相談を受けた際、グループホームにおいての支援を必要とするのか情報交換を行ない他サービスの可能性についても検討する等、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況や立場を理解するよう努め、寄り添う気持ちを常に持ち、安心できる関係づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や介護計画にサインを頂く際等の状況説明や協力を依頼するなかでコミュニケーションを深め信頼関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の状態や周囲の状況にもよるが、馴染みの関係が途切れる事のないよう出来る限り支援している。ご家族の協力も必要である。	利用者や家族の要望を受け、職員が付き添い馴染みの美容院に出掛けたり、菩提寺への参詣などの支援を行う。付き添いが困難な場合には、家族と相談のうえ適切な支援ができるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や相性、関係性、認知度を把握し、その場の雰囲気合った関わり方が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス変更後であっても、利用者同士の面会の機会を作ったり、関わりの継続は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活習慣や癖、日常の会話の中で意向、希望を把握し、安全面も考慮しながら可能な範囲で支援するよう努めている。	本人の意向を尊重し希望の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者の日常生活における癖を見逃すことなく、部屋の片づけが、子供に会いたいという帰宅願望である関係に気付くことができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録やご本人、ご家族の話し等から情報収集を行っている。これまでのサービス利用の経過等については、法人内の介護支援専門員等から情報を得、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしぶりから習慣や癖、趣味や思考の把握し、夜間、日中の生活状況を観察し、精神状態バイタルを記録に残し変化がわかるようにしている。医師の診察時に報告、心身に安定が維持できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや毎日のカンファレンス、ケア担当者会議等にて、医師、看護師、栄養士、相談員、介護士がそれぞれ意見を出し検討したものを介護計画に反映している。ご家族には計画を見て頂き意見、要望を聞いている。	毎日のカンファレンス、月毎のモニタリングを実施し計画に反映させている。本人や家族の意向を優先した対応を行い、さらに半年毎に見直しをして実情に即した介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に残し、毎日のカンファレンス等で気づきや情報を共有し、実践に繋げ介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人の状態やご家族の状況により柔軟に対応できるように、法人全体で支援してくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのお祭り参加、ボランティアの受け入れ等での交流にとどまっているが法人全体として担当者による取り組みがあり、必要に応じ対応が行なわれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師は入居時に家族の同意のもと法人の西山病院。月2回の往診があり、専門医、看護師のアドバイスも受けられる。耳鼻科、眼科、整形外科は他の医療機関を受診する。受診の際はご家族に同行して頂いている。	入居時の話し合いで、かかりつけ医を法人内の病院の医師に変更してもらうことへの理解を得ている。専門外の医療に関しては、従来利用していた病院も含めた他の医療機関への受診をお願いし支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の病院(協力医療機関)の看護師に必要時連絡をし適宜相談、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の担当者と情報交換に努め、安心できる様な体制作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の重度化や医療の必要性についてなるべく早い段階に説明し、共同生活が困難になりつつある事に理解が得られるよう努め、家族に対して相談員からその後のサービスについて説明を聞いて頂いている。	現在、終末期の方の対応は行っていない。入居時に重度化についての説明を行い、早い段階から家族との連絡を頻回にして現状の把握をもらい、今後の方針に関する相談をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の看護部長による指導を定期的に受けたが全ての職員に周知する必要がある為、研修を行なっていくようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で施設ごとの防災訓練は年3回、入居者を交えての非難誘導も行なっている。非常時の備蓄や備品保管場所に関しては常に職員一人ひとりが認識しているよう努めた	法人全体での災害対策マニュアルがあり、夜間も考慮した防災訓練が実施されている。グループホームのみのマニュアルが存在しないため、今後に向け独自の防災マニュアルの作成を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性を大切に、その利用者に対して相応しい言葉掛けや対応をして行くように心掛けている。特に排泄面や、精神面の変化には注意を払っている。個人情報の取り扱いにも注意している。	入室時のノックや声掛けなどのマナーには特に注意を払い、自尊心を傷つけないよう心掛けている。記録作業など個人情報を扱う場合には、見守りを行いながらも情報の漏洩のないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では出来る限り、ご本人が自己決定できる場面を作るよう待つ姿勢を基本とし、一人ひとりの能力や認知レベルに合わせた誘導や言葉掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活の場であるという事を大切に、業務優先にならないよう、今現在大切なこと、何をすべきか、何をしたいのかという事を、利用者の立場で十分に考慮し、利用者のペース守るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。また、介助が必要な方にはさりげなく言葉を掛けを行い身だしなみを整える等、利用者の気持ちにも配慮しながら行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は法人の給食で、ご飯のみ炊いている。盛り付け、配膳、片付けは職員と行い、同じテーブルと一緒に食事を楽しんでいる。月1回の手作り料理を2回に増やし、利用者の好みを考慮したメニューを考え支援している。	法人で作ってきた副食を盛り付けたり、お茶を入れたりして職員と共に配膳している。食後の片づけでも一人ひとり自分の食器を順に洗っている。月2回の手作り料理の日を楽しみにしている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態であり、法人の栄養士によるカロリー計算された食事内容である。水分補給もこまめな言葉掛けを行うよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の協力歯科医院の衛生士による口腔ケアの指導を受けている。義歯の方には曜日を決め「入れ歯洗浄剤」にて洗浄を行なう等清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、身体の状態、排泄能力を見極め、プライバシーに配慮しながら自立に向けた誘導や言葉掛けをしている。	便秘予防に昼食に必ず乳製品を取るようになっている。トイレ誘導時も排泄が終わった頃を見計らって声掛けをするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し把握に努めると共に、医師の指示のもと内服薬を調節。その人に合った時間帯に内服して頂いたり、乳製品摂取時は控える等工夫している。その他水分摂取、運動の促しを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員配置等の関係で、曜日や時間帯については決まっているが、利用者の気持ちに沿い無理強いはいしていない。入浴が好きではない人には曜日に関係なく入浴して頂く時間を作っている。	隔日でユニット交互に全員が週三回の入浴をしている。朝から夕方までいつでも好きな時間に利用でき、風呂嫌いな利用者のため日時に関係なく声掛けをして、入浴の機会を増やす支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の生活リズム、精神状態を観察し、日中の活動を促したり、休息をとって頂いたりしている。必要であれば医師の指示のもと内服薬の利用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬開始、中止、内服後の状態等、記録し、症状の変化を見極めるよう努めている。内服薬は医師の診察時に説明を受け情報を共有し、利用者に変化があった場合には医師に相談し内服薬変更等の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの思いを大切に、家事手伝いやパズル、塗り絵等、出来る事や興味のある事をして頂くよう日々支援し、年に数回は、1,2階合同での行事レクリエーションにて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、催し物見学等出来る限り戸外へ出かけられるよう、支援している。利用者の希望や状況に応じ、個別に買い物、美容院等へ出かけられるよう努めている。現状では個人差がある為、今後の課題も残っている。	毎日少人数で法人内の敷地内に散歩に出掛けている。個人対応のできる日には本人がお金を持ってコンビニエンスストアに買い物に行くこともある。法人内施設で催し物を行っているときは職員と入居者と一緒に見学に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には所持して頂いている。少し不安のある方はお預かりし必要時使用して頂くようにしている。混乱を招きやすい方には状況に合わせた対応をし、買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	決まった時間内での携帯電話の使用や施設内電話の使用をしている。環境により、トラブルを避ける為、携帯電話を預らせて頂いているが日中の時間内であれば、希望時には掛ける事ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側のサッシから入る日差しは暖かく明るい。緑が多く見える景色も居心地の良い居場所となっている。ホール内の壁に季節ごとの手作りの飾りをし、食卓テーブルには摘んだ花が飾られるなど、季節を感じられるような工夫をしている。	食堂や居間・台所がすべて見渡せる広い共有空間である。南側には広いサッシがあり窓いっぱいの日差しは暖かい。ベランダからは周り一面の緑が見え落ち着ける空間となっている。壁には利用者の作品である習字や季節の折り紙が飾られ季節感を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が集まれる居間や一人で作業が出来るテーブルがある。所々に置いた観葉植物や衝立にて一人でくつろげる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスはこちらで用意したものを使用している。個々に使い慣れた物を使用し暮らしやすい居室作りをされているが、利用者の状態によっては、物を置かない部屋作りをしている場合もある。	ベッドとタンスは施設のものを使用してもらっている。馴染んだ文机やタンスを自宅から持参する利用者もあり、自身で書いた習字や塗り絵などで自分なりに部屋を飾りつけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、必要な箇所には手摺が設置してある。各居室目印となるように好みの暖簾を掛け、トイレの標示をし、居室ドアや室内のタンスの引き出し等、利用者が使用しやすいよう軽く出来ている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家	ユニット名	2階
所在地	静岡県浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	平成23年1月27日	評価結果市町村受理日	平成23年5月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成23年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・施設内は明るく清潔。 ・利用者の個性を尊重し、プライバシーに配慮した生活を送っている。 ・職員は常に利用者の事を第一に考えている。 ・利用者が気持ちよく落ち着いて生活できるよう支援している。 ・健康や安全面に配慮しながら、その人らしい生活が出来るように支援している。 ・感謝の言葉を忘れない。 ・ご家族ともより良い関係が保てるよう努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行ききたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「気持ちのわかる親切、清潔、和やかな雰囲気」を基本に、グループホームの理念「自然体で安らぎ、ぬくもりのある暮らしの中で共に歩んでいきます」を実践していくよう日々努力している。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホーム単独で日常的に地域とのつながりを持つ事は難しく、法人全体としての関わりに留まっているが、地域のお祭りに参加する等の関わりは継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として行なっている。グループホームとして地域の方への働きかけは不十分な面はあるが運営推進会議を通して少しずつ理解して頂くことやボランティアを導入し理解を深めて頂くよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価や外部評価結果、日常生活の報告等をし、意見を頂きサービス向上に役立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度推進会議にて、市の担当者に現状を報告し、市の相談員の来訪にて現状をみて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修の参加や、ミーティングでの話し合いにより理解し実践している。出入り口の施錠についても、開錠を基本とし、どうしても施錠が必要な時のみとしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて高齢者虐待について勉強会を 身体虐待はもちろんの事、精神的虐待もあってはならない。常に利用者に寄り添い気持ちに沿った支援に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の専門的立場の担当者がある。ミーティングにて勉強会を開き学んだ。活用する機会はあまりないが、継続して勉強していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人内の相談課にて十分な説明のもと、不安や疑問に関しては、管理者が直接説明する機会も設けており、理解している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議での意見交換、面会時や介護計画説明時に要望や意見を聞き職員間で共有しケアに反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に意見箱があり、提案等を聞ける機会を設けてある。ミーティングや個別に意見を聞き反映させるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の努力や勤務状況、実績について把握し、代表者に報告している。労働時間の検討改善が必要な部分がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を中心に行なっている。外部研修は十分とは言えないが、出来る範囲で参加しミーティング等フィードバックしていくようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会し、勉強会等に参加している。回数が少なく、交流がもてるまでに到っていない。情報交換の必要性は十分に解かっている。今後は交流する機会を作っていくよう努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の相談課にて専門の相談員が家族より相談を受けている。本人の困っている事や要望についてはご家族から聞き取る事が多いが、要望に沿った必要なサービスが出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人内の相談課にて専門の相談員が相談を受け要望や不安を聞き取り不安がないよう安心してサービスの利用が出来るよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の相談課にて相談を受けた際、グループホームにおいての支援を必要とするのか情報交換を行ない他サービスの可能性についても検討する等、努めている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況や立場を理解するよう努め、寄り添う気持ちを常に持ち、安心できる関係作りをしている。		
19		○本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時や介護計画にサインを頂く際等の状況説明や協力を依頼するなかでコミュニケーションを深め信頼関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の状態や周囲の状況にもよるが、馴染みの関係が途切れることのないよう出来る限り支援している。ご家族の協力も必要である		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や相性、関係性、認知度を把握し、その場の雰囲気合った関わり方が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス変更であっても、利用者同士の面会の機会を作ったり、関わりの継続は続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活習慣や癖、日常の会話の中で意向、希望を把握し、安全面も考慮しながら可能な範囲で支援するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談記録やご本人、ご家族の話し等から情報収集を行っている。これまでのサービス利用の経過等については、法人内の介護支援専門員等から情報を得、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしぶりから習慣や癖、趣味や思考を把握し、夜間、日中の生活状況を観察、精神状態バイタルを記録に残し変化がわかる様になっている医師の診察時に報告、心身に安定が維持できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングや毎日のカンファレンス、ケア担当者会議等にて、医師、看護師、栄養士、相談員、介護士がそれぞれ意見を出し検討した物を介護計画に反映している。ご家族には計画を見ていただき、意見、要望を聞いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に残し、毎日のカンファレンス等で気づきや情報を共有し、実践に繋げ介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の本人の状態やご家族の状況により柔軟に対応できるように、法人全体で支援していくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのお祭り参加、ボランティアの受け入れ等での交流に留まっているが法人全体として担当者による取り組みがあり、必要に応じ対応が行なわれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師は入居時に家族の同意のもと法人の西山病院。月2回の往診。専門医、看護師のアドバイスも受けられる。耳鼻科、眼科、整形外科はたの医療機関を受診する。受診時にはご家族に同行して頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の病院(協力医療機関)の看護師に必要時連絡をし適宜相談、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の担当者と情報交換に努め、安心できる様な体制作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症の重度化や医療の必要性についてなるべく早い段階に説明し、共同生活が困難になりつつある事に理解が得られるよう努め、家族に対して相談員からその後のサービスについて説明を聞いて頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の看護部長による指導を定期的に受けたが全ての職員に周知する必要がある為、研修を行なっていくようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で施設ごとの防災訓練は年3回、入居者も交えての非難誘導も行なっている。非常時の備蓄や備品保管場所に関しては常に職員一人ひとりが認識しているように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの個性を大切に、その利用者に対して相応しい言葉掛けや対応をしていくように心がけている。特に排泄面や、精神面の変化には注意を払っている。個人情報の取り扱いにも注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活では出来る限り、ご本人が自己決定できる場面を作るよう待つ姿勢を基本とし、ひとりひとりの能力や認知レベルに合わせた誘導や言葉掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活の場であると言う事を大切に、業務優先にならないよう、今現在大切なこと、何をすべきか、何をしたいのかという事を、利用者の立場で十分に考慮し、利用者のペースを守るよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切にその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。また、介助が必要な方にはさりげなく言葉掛けを行い身だしなみを整える等、利用者の気持ちにも配慮しながら行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は法人の給食で、ご飯のみ炊いている。盛り付け配膳、片付けは職員と行い、同じテーブルで食事を楽しんでいる。月1回の手作り料理を2回に増やし、利用者の好みを考慮したメニューを考え支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態であり、法人の栄養士によるカロリー計算された食事内容である水分補給もこまめな言葉掛けを行うよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の協力歯科医院の衛生士による口腔ケアの指導を受け入れている。義歯の方には曜日を決め「入れ歯洗浄剤」にて洗浄を行なう等清潔の保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、身体の状態、排泄能力を見極め、プライバシーに配慮しながら自立に向けた誘導や言葉掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を記録し把握に努めると共に医師の指示のもと内服薬を調節。その人に合った時間帯に内服して頂いたり、乳製品摂取時は控える等工夫している。その他水分摂取、運動の促しを行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員配置等の関係で、曜日や時間帯については決まっているが、利用者の気持ちに沿い無理強いはいしていない。入浴が好きではない人には曜日に関係なく入浴して頂く時間を作っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのその日の生活リズム、精神状態を観察し、日中の活動を促したり、休息をとって頂いたりしている。必要であれば医師の指示のもと内服薬の利用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬開始、中止、内服後の状態等、記録し、症状の変化を見極めるよう努めている。内服薬は医師の診察時に説明を受け情報を共有し、利用者に変化があった場合には医師に相談し内服薬の調整をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの思いを大切に、家事手伝いやパズル、塗り絵等、出来る事や興味のある事をして頂くよう日々支援し、年に数回は、1、2回合同での行事レクリエーションにて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴、催し物見学等出来る限り戸外へ出かけられるよう、支援している。利用者の希望や状況に応じ、個別に買い物、美容院等へ出かけられるよう努めている。現状では個人差がある為、今後の課題も残っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には所持して頂いている。少し不安のある方はお預かりし必要時使用して頂くようにしている。混乱を招きやすい方には状況に合わせた対応をし、買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	決まった時間内での携帯電話の使用や施設内電話の使用をしている。環境により、トラブルを避ける為、携帯電話を預らせて頂いているが日中の時間内であれば、希望時には掛けることができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南側サッシから入る日差しは暖かく明るい。緑が多く見える景色も居心地の良い居場所となっている。ホール内の壁の季節ごとの手作りの飾りをし、食卓テーブルには摘んだ花が飾られるなど、季節を感じられるような工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆が集まれる居間や一人で作業が出来るテーブルがある。所々に置いた観葉植物や衝立にて一人でくつろげる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットとタンスはこちらで用意したものを使用している。個々に使い慣れた物を使用し暮らしやすい居室作りをされているが、利用者の状態によっては、物を置かない部屋作りをしている場合もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、必要な箇所には手摺が設置してある。各居室目印となるように好みの暖簾を掛け、トイレの標示をし、居室ドアや室内のタンスの引き出し等、利用者が使用しやすいよう軽く出来ている。		